

1人1台端末を活用した授業づくり ～子どもの「安心・安全」と「学びの保障」の両立を目指す学校づくりへの挑戦～ 新篠津村立新篠津中学校 学級数4 (校長 吉本 浩志)

I 実践テーマの趣旨

本校は、新型コロナウイルス感染症に対応した教育活動を進めるにあたり、令和3年度の重点目標「他者との関わりを通して、自らの学びを深め続けることができる子どもの育成」を実現するため、既存のICT機器や、昨年度末に導入された1人1台端末を最大限活用している。子どもの「安心・安全」に留意しながら、学びをどのように保障するかについて、小学校や保護者と連携しながら挑戦を続けている。

II 実践の概要

(1) 挑戦の土台となる体制の構築

① 学校組織と研修体制【学校】

昨年度、本校は、臨時休業期間におけるオンライン学習を実施するために、プロジェクトチームを編成した。このチームはその後「GIGAスクール推進プロジェクトチーム」に名を改め、1人1台端末導入の準備や運用の基盤を形成する役割を担った。また、校内研修を重点的に実施し、GIGAスクール推進の目的を共有しながら全教職員がICT活用の知識とスキルを獲得した。さらに、1人1台端末を活用した授業づくりを先進的に研究している学校への視察研修を行い、小中一貫教育の組織を活用した研修の方法や内容について校内に成果を普及した。

② 小学校との連携【関係機関】

小学校と連携しながら1人1台端末導入やAIドリル導入に向けた研修、協議を行うとともに、相互の授業参観などによる実践交流を進め、端末の活用を推進している。

③ 家庭の理解と環境整備【保護者】

本校は令和3年5月以降、1人1台端末の持ち帰りを行っている。家庭におけるWi-Fi環境の調査や個別の聞き取り等を進め、持ち帰りによる運用が可能と判断した。

(2) 1人1台端末を活用した授業づくりの実際

① 教師による活用

まずは教師が使って慣れることを最優先にした。1人1台端末が学習ツールとして学校教育の中に自然に位置付くことを目標とし、教室での授業において、生徒の意見を一覧表示したり、保健体育科において、生徒が自分の動きを撮影し、課題点を書き込んだりするなど日常授業での活用が進んだ。

② 活用実践の蓄積と交流

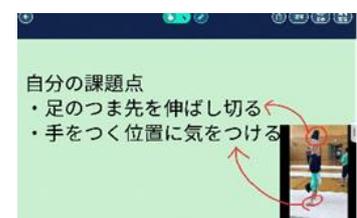
GIGAスクール担当教諭を中心に、授業等での活用について、「タブレット活用事例」を作成した。事例を基に、実践交流を通して互いの活用能力を高める取組を進めている。

③ 実用的な双方向型オンライン学習への挑戦

長期休業を活用し、危機回避的なオンライン学習ではなく、対面で行う授業による効果を追究した双方向型オンライン学習の実践を進め、同時にその検証を行っている。



【1人1台端末活用の様子】



【保健体育科での生徒の活用】

III 成果と課題

- コロナ禍においても、1人1台端末を用いて協働的な学びを進めることが可能となり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を柱として、子どもの学びの保障を実現することができた。
- 1人1台端末の持ち帰りを通して、家庭の通信状況の把握や家庭とのICT活用に係る共通理解を進めることができた。
- 1人1台端末を含むICT活用に係る研修を通して、教職員の研修意欲が高まった。
- 1人1台端末を活用した授業づくりについて、教育効果を検証し、必要に応じて改善する必要がある。